

# 敬和創



上田市立第六中学校  
学校だより No.11  
令和8年1月30日(金)



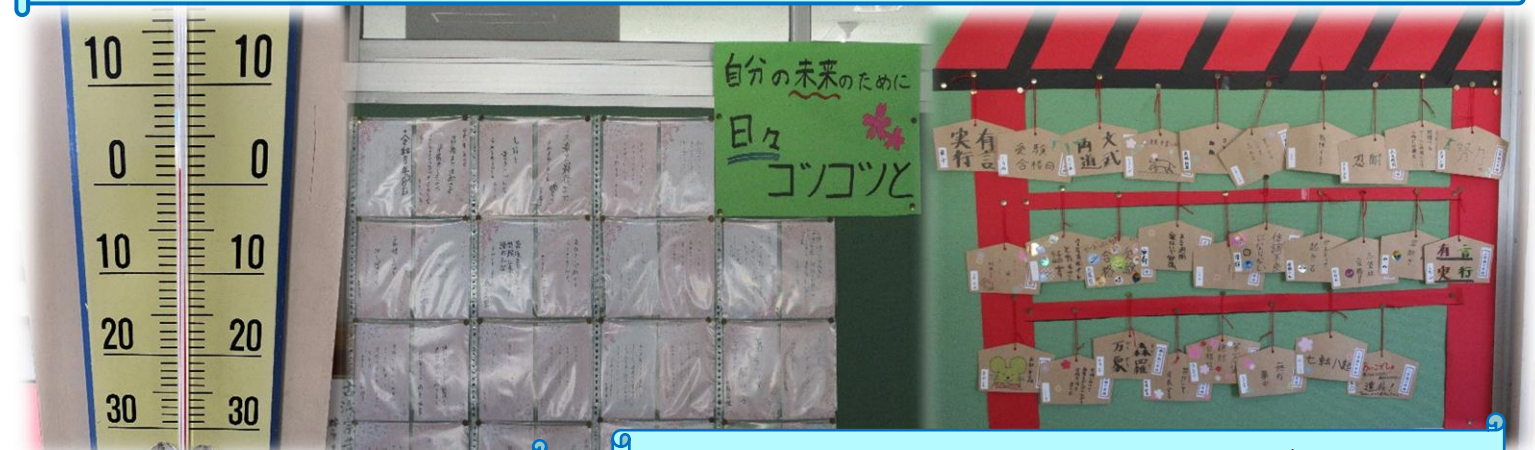
「耐雪梅花麗」の3学期～厳しい寒さや雪に耐え、美しく咲く梅の花のように



1年 中学校説明会での雄姿 憧れのまなざしを背に受けて～頼もしき「先輩」への第一歩

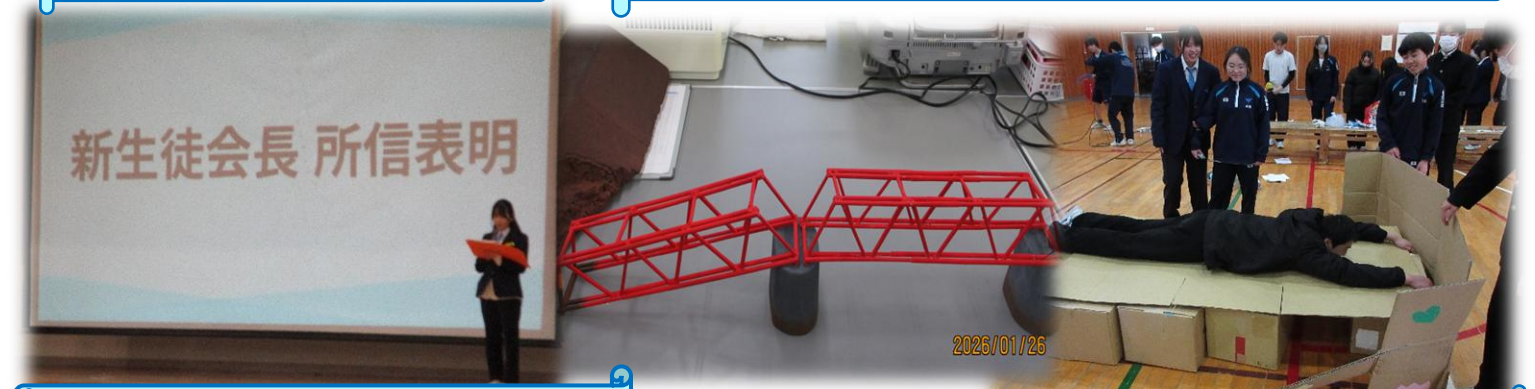


始業式 各学年代表者によるマイ・メッセージ～自分の弱さや迷いを断ち切り、努力を結果につなげる3学期に



寒波襲来！日中でも校内は1.5℃

合格への願いは担任も同じ～一人ひとりの願いがこもった合格祈願の手作り絵馬と「サクラサク」メッセージ



引き継いだ心のバトン～生徒集会での生徒会長所信表明「全員で創る生徒会に」

生徒も教師も共に歩んだ学び～3年「防災フェス」本日本番



## ○3学期始業式 校長講話～「あとみよそわか」

47日間の三学期が始まりました。

今日は、「あとみよそわか」というお話をします。

“あとみよそわか”という言葉があります。それは、明治時代の文学者の幸田露伴（こうだ ろはん）が娘の文（あや）に教えた“礼儀作法”の心です。文のお母さんは彼女が8才の時亡くなり、お父さんの露伴がいろいろな作法を教えました。掃除も大事な礼儀作法の一つとして厳しくしつけたと聞きます。露伴はまず掃除道具を直すことから教えました。使う道具が傷んでいては良い掃除ができないと言って、ほうきのゆがみを直すということもしていました。次は掃除の順番です。まず戸を開け整頓をし、はたき掃除、ふき掃除、と教えていきました。「格好だけではだめだ。心がこもっていなければ良い掃除はできない」と、ほうきの持ち方、使い方、目の付けどころ、立ち振る舞いまでこまごまと教えました。文は一生懸命に掃除をし、それが終わるときちゃんと正座し「ありがとうございました」とお父さんにお礼を言いました。露伴は「掃除が終わってこれでいいと思ってからもう一度、“あとみよそわか”と呪文を唱え、ふり返ってみるものだ。ここまで来て初めて心のこもった掃除ができるのだ」と注意しました。それからの文は、「人が見て嫌な思いをするとこころはないか」「あとみよそわか。あとみよそわか」と部屋の隅々まで念入りに見回すようになりました。そして終生このことが身に付いていたということです。“そわか”とは仏教用語で「円満」とか「成就」というような意味で、よく呪文の後に付ける言葉のようです。ということは、“あとを見よ そわか”で、“あとみよそわか”は呪文として露伴が文に教えたものだというのが分かります。「あとみよそわか」を漢字で書くと「跡見よ 薩婆訶」です。

先生が学校で廊下やトイレ、特別教室の清掃の様子を見てみると、「どうしてここまで行き届いた心遣いができるのか」と思える清掃をしてくれている生徒が何人もいます。また、学校の清掃は、清潔の習慣の育むばかりではなく、集団で協力して時間内にやり遂げる力、言い換えれば、段取りをする力や主体性、協調性などを高めていくものであると思っています。

今の自分の清掃を各自ふり返ってみてください。与えられた自分の分担を責任をもってやり遂げられていますか？気づいて隅々まできれいにしようとしていますか？集中して無言で取り組んでいますか？

“あとみよそわか。あとみよそわか。”掃除だけに留まらず、学校生活や家庭生活で我々が取る一つひとつの行動に常に自分が納得いくように心を配っているかを確認するための深い言葉だと感じます。脱いだ靴は揃える、開けた扉は閉める、使ったものは元に戻す、人がいない教室やトイレの電気は消す・・・当たり前のことかもしれないけれど、もっともっと今まで以上に一つひとつの動きに責任を持って学年のまとめの時期である三学期、生活をしていきましょう。

あとみよ そわか  
＝「跡見よ 薩婆訶」



○1月20日（火）第2回学校運営委員会では、学校運営に関して、委員の皆様より数々の励ましのお言葉をいただきました。

1年生→授業では背筋を伸ばし、目がしっかりと前を向いていた。学級の雰囲気は授業をつくっている。

2年生→前のめりになり、集中してノートをとる姿があった。

3年生→先生から指名された生徒がしばらく考えていると、周囲の子が助言し、サポートする姿があった。

職員に対して→先生方もどんと構えて自分を出してよい。学級や廊下の掲示物、素晴らしい。

第六中学校 校長 中野 裕顕 担当：富山 貴子(教頭) Tel 22-5013 ueda6@sk.ueda.ed.jp

